

# 第5次川津地区地域福祉活動計画

(令和元年度～令和5年度)

スローガン(かわつの福祉目標)

手をつなぎ 心つないで わく笑顔



川津地区社会福祉協議会

**<表紙・裏表紙>**

梅谷香苗 氏 作

※梅谷香苗氏の作品を使用させていただくことについては、ご了解をいただいています。

## はじめに

20年後、「団塊ジュニア世代」が65歳以上になり、加えて、少子化の影響で社会保障の支え手となる現役世代が激減すると言われ、社会問題の一つとして高齢者の社会的孤立がますます深刻化していくことが予想されています。

今後、どんな時代を迎えようとも、川津に住み慣れた人、川津に移り住んで間もない人など、誰もが心豊かに安全で安心していきいきと暮らせるよう、地域福祉の充実を図っていくためには、様々な主体（行政、自治連合会、社会福祉協議会、関係団体、NPO、事業者など）が連携を深めるとともに、何と言っても、地域住民の参画が重要となります。

こうしたことを踏まえ、この度、第5次川津地区地域福祉活動計画（2019年～2023年）を策定しました。上述の様々な主体と連携を取りながら、一歩ずつ進めていきたいと考えています。

平成31年4月

川津地区社会福祉協議会

# 第5次川津地区地域福祉活動計画

(令和元年度～令和5年度)

## 1 川津地区の概要

### (1) 川津地区の地理的概要

川津地区は、松江市の市街地の北東部に位置する。昭和20年代までは一農村部にすぎず、昭和14年に松江市と合併した当時の人口は、2,569人、世帯数は435戸で、大きな建物といえば、旧制松江高等学校のみという、のどかな田園風景の広がる地域であった。

昭和40年頃から宅地開発が進み、住宅団地の造成が始まる。

川津地区に大きな変化をもたらしたのは、昭和47年着工、平成8年完成した北部区画整理事業である。また、国道431号線のバイパス道路を通す事業により、その周辺の開発が進む。さらに、複数の大型団地の造成、高層マンションの建設、学園通り商店街の誕生へと大きな発展を遂げることになる。

また、川津地区は、幼稚園から大学までを擁する松江市随一の文教地区でもある。

近年、道路整備も進み、平成25年には、国道431号線を起点とした「だんだん道路」が、縁結び大橋を経て国道9号線、松江道路へとつながり、橋北と橋南を結ぶ交通の利便性が一段と高まった。

現在、川津ICから古江方面へ通じる松江北道路計画も着実に進められつつあり、今後、川津地区が、松江市の中心市街地としてますます発展していくことが予想される。

開発と都市化が進む川津地区だが、潤いのある山河が十分に残されている。東に県立自然公園嵩山が川津地区を見守るようにどっしりと構え、まちの中央を貫くように、朝酌川(水草川)が流れる。その両岸には二百数十本の桜の木が年ごとに見事な花を咲かせてくれる。こうした豊かな自然は、住民に安らぎや元気を与え、また、これからの福祉活動の場としても大きな期待が持てる。

### (2) 人口構造(平成31年3月末現在)

人 口	16,000人余(住民登録) 19,000人余(H27国調)	65歳以上高齢者率	21%(住民登録ベース) 17%(国勢調査ベース)
世 帯 数	7,800世帯余	町内会・自治会数	46地区
65歳以上高齢者数	3,350人	町内会・自治会加入率	40%

## 2 川津地区の現状

川津地区は、島根大学を擁し、県内外から約5千人の学生が勉学・研究、生活の場とし、地区の活性化の一翼を担っている。また、時代と共に郊外型の団地、マンションやアパート等が増え、従来からの住民と新しい住民が入り混じった構成を成している。(新しい住民が過半数以上を占めている)

マンション、アパート等の住民は、町内会・自治会を組織しない傾向が加速しており、町内会・自治会への加入率は40%を切っている現状である。(平成25年度末は50%弱)

地域に根ざした福祉活動を進めていく上で、町内会・自治会の果たす役割は極めて大きい。未加入者に対する働きかけは、各種団体が連携を取りながら進めていかなければならない大きな課題である。

### (1) 高齢者問題

高齢者の多くは、住み慣れたこの地区で暮らし続けることを希望している。人口1万6千人余（国調は1万9千人余）のうち65歳以上の高齢者が3,350人、後期高齢者は1,500人に。独居高齢者は800人を超え、高齢者のみの世帯は1,500世帯を超える。しかも、介護保険の認定者は600人である。

川津地区は若者も多く、65歳以上の高齢者比率は21%と低く、高齢者問題については比較的目立たないが、前述のごとく高齢者の絶対数は膨大である。医療や介護制度に依拠しない高齢者の健康寿命をいかに確保するかが課題となっている。

加えて、町内会・自治会加入率が市内で最も低いことに見られるように、地域の結びつきが弱く、都市的な問題とされてきた孤立死も発生するなど、他地域と同様、むしろそれ以上に深刻な高齢者問題が存在する。地域で高齢者の見守り体制をどう確保していくのかが今後の課題となっている。

### (2) 子どもたちの問題

川津地区では毎年160人前後の子どもが誕生し、14歳以下の子どもの総数は2,100人を数える。この子どもたちが地域の中で健やかに育っていく環境を整えることも必要である。

格差社会の到来で全国的に貧困家庭の問題や貧困の連鎖といったことが問題となっている。全国的に見れば、16%が貧困の範疇に該当すると言われていたが、川津地区においても例外ではないと思われる。むしろ、それを上回るとする説もある。

現在、登下校中の見守り活動やパトロール、子ども会活動などの支援、授業や学校行事への支援など多彩な活動が展開されているが、これらに加え、地域の中で子ども達を育むために何ができるのかを模索する必要がある。

この川津で生まれ育った子どもたち、他の地域から移住してきた子どもたちにとって、川津の歴史や文化、強みや弱みをきちんと伝え、考えさせ、この川津を誇りに思ってもらえるような仕掛けづくりを展開していきたい。

そのためにも、幼稚園、小・中学校やPTAとの関係をさらに強める必要がある。

### (3) 障がい者等の問題

川津地区には松江養護学校があり、多くの障がい者向けの施設がある。また、デイサービスをはじめ高齢者施設も数多く存在する。近年、松江養護学校の生徒による川津公民館での美化・清掃活動や各種イベントでの地域住民との交流が増えている。一方、施設と地域住民との関わりは残念ながら、ほとんど見られないのが現状である。

国は相模原の事件を受け、福祉施設に地域貢献を求めるなど、地域とのつながりを強化しようとして

いる。また、松江市も地域住民が積極的に福祉施設との関係を持つよう働きかけをしている。

ハンディキャップを持つ人たちとの交流は、相互理解を深める上で極めて重要である。そのことは人権問題の根底にも通じるものであり、今後地域としても継続して取り組んでいく必要がある。

#### (4) その他

安全・安心なまちづくりという観点からみると、ハード面は町内各所へ防犯灯を取り付けることや商店街に防犯カメラを設置する等、年々整備が進んでいる。ソフト面では、「セーフティ・かわつ」による日々の登下校時の子ども見守り活動がきめ細かくなされている。また、長期休業中の夜間パトロールには、島根大学の学生がこの活動に参加し貢献しているのもこの地区ならではの長特である。

地震並びにその他の災害が全国各地で多発しているが、平常時の備えや心得はもとより災害に対する住民の防災意識は、少しずつ拡がりを感じられるようになったが、松江市が呼び掛けている自主防災組織については、7地区が結成を終えているにすぎない。

また、川津地区の抱えている問題の一つに介護保険制度がある。年ごとに共助の比重が高くなり、今後ますます地域社会の役割が重要になってくる。

互いに支え合う社会の構築には、地区社会福祉協議会が大きな役割を果たすのは言うまでもないが、自治会や民生児童委員協議会、青少年育成協議会、体育協会、高齢者クラブ連合会など、あらゆる団体との緊密な連携が不可欠である。

加えて、川津固有のインフラである島根大学や学園通り商店街との連携を深め、様々な局面で躊躇することなくコラボすることを模索していく必要がある。

### 3 第5次川津地区地域福祉活動計画の概要

#### (1) 福祉目標の設定

『手をつなぎ 心つないで わく笑顔』

#### (2) 重点活動

第5次川津地区地域福祉活動計画表（別紙）による

### 4 第5次川津地区地域福祉活動計画の進行管理

今後、第5次川津地区地域福祉活動計画策定委員会で策定された福祉計画のもと、川津地区社会福祉協議会を中心に、地域住民をはじめ各種関係団体等が一体となって「福祉で川津のまちづくり」に向け鋭意努めていきたい。



川津地区社会福祉協議会の取り組み



認知症サポーター養成講座



夏休みの子どもの居場所づくり事業  
「カレーライス作り」



喫茶「嵩の杜」



がん検診啓発講座



寿の集い (H30 年度で第 50 回)



視察研修 (出雲市塩冶地区へ)



福祉の集い (H30 年度で第 25 回)



川津健康の日 (11/23) 健康チェック

**スローガン（福祉目標） 「手をつなぎ 心をつないで わく笑顔」**

テーマ	活動目標	現在の課題・改善点	具体的活動
<b>みんな集まれ～</b>	1 みんなで楽しもう 2 みんなで学ぼう 3 「かわつ」の現状を知り、課題を見つけよう（地域学習）	①男性の参加者が少ない（各年齢層とも） ②参加者の固定化 ③公民館から遠い地域の方たちへの配慮が必要 ④ふるさと 川津 に対する意識の醸成	ア かわつ福祉の集いの開催 イ 寿の集いの開催 ウ なごやか寄り合い会（副事業 交流事業）の拡大 エ 喫茶「嵩の杜」の開催 オ 周辺地域の自主的事業に対し、出前講座のあつせんなどの支援 カ 健康づくりのための各種イベント・講座の開催 キ 子どもの居場所づくりの推進 ク 子ども達が川津に誇りを持てるような仕掛けづくりを企画推進
<b>みんなで見守り 支え合おう</b>	1 安全・安心なくらし 2 素敵なあいさつと笑顔で見守り	①自治会・町内会加入率及び自主防犯隊の組織率の低さ ②社会的孤立化の防止 ③認知症予防への取り組み強化 ④子ども達の安全確保	ア 避難行動要支援者対応及び体制づくりへの参画 イ 社会的孤立化・孤独死防止に向けた取り組み（町内会・自治会 民生児童委員 福祉推進員 新聞配達員等との連携） ウ 困りごと（ゴミ出し 買い物 消費者被害等）の解決に向けた取り組み エ 認知症についての理解と周知 オ 認知症リポーター養成講座の開催と「ほっとオレンジかわつ」との連携強化 カ 登下校時の安全誘導 通学路安全マップの見直し キ 笑顔であいさつ運動の啓発
<b>みんなて手をつなぎ、力を合わせよう</b>	1 島根大学とのコラボ（島大生の地域貢献と連携） 2 地元の学校や福祉施設と学び合おう 3 新たな人材発掘と育成 4 各種関係団体とコラボ	①島大生と地域住民との関係性が希薄 ②地元の小・中・高校生と地域住民との関係性が希薄（特に、松江養護学校生及び松江東高生と） ③豊富な人材に恵まれているが、新しい人材の発掘が必要	ア 島大生による各種イベント支援 イ 島大生による地域づくりへの提案（ワークショップ等） ウ 島大生対象「川津住み心地アンケート」の実施 エ 学校行事と地域行事への相互の参画と支援 オ 子ども達による地域づくり支援（ワークショップ等） カ 人材バンク制度の導入（地域リポーターの募集） キ 人材づくり研修会の開催 ク 青・壮年層への活動支援（例「若者100人の集い」） ケ 各種関係団体（注1参照）との関係強化
<b>みなさんの自主的な活動を 支えます</b>	支援のための組織と財源の充実	住民による自主的な活動を充実していくための支援	ア 福祉推進員への支援 イ 健康まつえ21川津地区推進隊への支援 ウ なごやか寄り合い会への支援 エ こまの会への支援 オ あったかスクラムへの支援 カ その他の自主的活動グループ（注2参照）への支援
<b>みなさんに伝えます 広めます</b>	1 こんな事します、しましたを広くお知らせします 2 みんなで「かわつ」を盛り上げる機運づくりに加わろう	①広報誌 HP等による広報活動を充実 ②「かわつ」いっとこ探し	ア 「かわつ福祉の集い」の発行（年2回） イ 「こんごちは まめめね」の発行 ウ 地域住民対象「川津住み心地アンケート」の実施

※第5次地域福祉活動計画策定委員会は「地域支え合い協議体（第2層）」を兼ねる。都度、地域福祉活動計画の振りかえりと見直し（進捗状況のチェック）を行う。

◎具体的な種別欄のアンダーラインの項目・・・第5次地域福祉活動計画の新規事業

【川津地区社協】	A 総務部	B 一般庶務部	C 在宅部	D 健康まつえ21川津地区推進隊	E 福祉推進員
(注1)	a 自治連合会	b 民生児童委員協議会	c 青少年育成協議会		
	d 公民館運営協議会	e 地域人権・同和教育推進協議会	f 交通安全対策協議会		
	g 交通安全協会	h 地域安全推進員会	i 体育協会		
	j 川津幼稚園 川津小学校 第二中学校 松江東高 松江養護学校 島根大学等教育機関				
	k 各学校PTA	l 松東地域包括支援センター	m 菅田会館	n 川津交番 等々	
					(注2)
					o 子ども会育成協議会
					p 高齢者クラブ連合会
					q セーフティ・かわつ
					r パトロールママの会
					s ほっとばる
					t 更生保護女性会
					u 施設交流ボランティア
					v 保護会
					w 川津ふるさと太鼓



## 川津地区第5次(2019～2023年度)地域福祉活動計画策定に向けて

### (1) 小委員会（コア委員会）の立ち上げ、策定委員会への原案づくり

- ① 第1回小委員会・・・2018年 7月20日（金）13：30～
- ② 第2回小委員会・・・2018年 9月 6日（木）13：30～
- ③ 第3回小委員会・・・2018年10月12日（金）13：30～
- ④ 第4回小委員会・・・2018年11月20日（火）13：30～
- ⑤ 第5回小委員会・・・2019年 1月 8日（火）13：30～
- ⑥ 第6回小委員会・・・2019年 3月 8日（火）13：30～

### (2) 策定委員会（地区社協の理事会を策定委員会とする）の開催

- ① 第1回委員会・・・2019年 2月27日（水）18：30～
- ② 第2回委員会・・・2019年 3月20日（水）18：30～

# 参 考 資 料

令和元年5月

	事業・団体等の名称	内 容	問合せ先
事業名	① 要配慮者支援推進事業	① 災害時のみならず、平常時からの地域の関係づくりや見守り活動など、地域の自主的な要配慮者支援の活動に対して行う制度。	① 市福祉総務課
	② なごやか寄り合い事業	② 身近な町内会・自治会を受け皿に「地域の茶の間」づくりとして始まった事業で、「介護予防」と「まちづくり」を柱に気兼ねなく安心して寄り合える心の交流の場。	② 市健康政策課 市社協地域福祉課 (各公民館)
	③ まめなかポイント事業	③ 登録した介護施設やなごやか寄り合い事業でボランティア活動を行うと、活動に応じてポイントが得られ、そのポイントを現金への交換や寄付ができる事業。	③ 市福祉総務課 松江市ボランティアセンター
	④ あったかスクラム事業	④ 障がいのある子どもたちの住んでいる地域において、公民館を拠点として色々な人と体験活動をするための体制づくりと活動の推進。	④ 市社協生活支援課 (各公民館)
	⑤ 高齢者等見守り活動に関する協定	⑤ 新聞配達員が配達先で新聞が何日も取られていないなど、異変を察知した場合、販売店を通じて民生児童委員や公民館、地区社協に連絡し、対象者の安否確認や情報把握を行う。	⑤ 各公民館
	⑥ 日常生活支援総合事業 (総合事業)	⑥ 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築していくことを目的とした、介護保険事業。	⑥ 市介護保険課
※川津地区内 団体名	① 健康まつえ21かわつ推進隊	① 健康づくりに関するイベントや講座の開催情報発信、健康診査やがん検診の受診勧奨PRなど、川津地区の実情に合わせた取り組みを行う。	① 川津公民館 (地区社協)
	② 高齢者クラブ連合会	② 概ね60歳以上の高齢者が集まり、ボランティア活動、教養や趣味の活動、健康増進の活動、レクリエーション活動や地域社会との交流活動などを行う。	② 川津公民館
	③ セーフティ・かわつ	③ 子どもの登下校時の見守り活動、夜間のパトロール、万引き防止活動、自転車鍵掛け運動、犯罪の無い地域づくりのための調査・提言などを行う。	③ 川津公民館
	④ こまの会	④ 平成8年度発足。60歳以上の一人暮らしの方(昼間一人で過ごしている方も含む)を対象にした高齢者の会。(バス旅行、料理教室、地区社協行事に参加等)	④ 川津公民館 (地区社協)
	⑤ ほっとオレンジかわつ	⑤ 認知症サポート養成講座の受講者が横の連携を取って、認知症の方の見守りを推進していくための組織。	⑤ 川津公民館 (地区社協)

委 嘱 業 務	① 民生児童委員 ※川津地区：24名	① 国の委嘱を受けた地域ボランティア。地域の高齢者や児童、障がい者など福祉サービスが必要な人のいる家庭が孤立しないよう、窓口として行政などにつなげる役割を担う。	① 松江市 (各公民館)
	② 主任児童委員 ※川津地区：2名	② 地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談・支援等を行う。児童に関することを専門的に担当する「主任児童委員」が任命される。	② 松江市 (各公民館)
	③ 福祉推進員 ※川津地区：44名	③ 近所の高齢者や障がい者、支援を必要とする方が小さな声で発しているSOSをキャッチし、必要な支援へとつないでいく役割を地域の民生児童委員や地区社協とともに取り組む人。	③ 川津公民館 (地区社協)
	④ 保健協力員 ※川津地区：12名	④ 地域の中で健康づくりの取り組みを行う人を増やすことを目的に、平成22年度に「保健協力員認定制度」を創設。各地区で「健康まつえ21推進隊」等とともに健康診査やがん検診の受診勧奨等の活動を支援する。	④ 川津公民館
	⑤ 食生活改善推進員 ※川津地区：12名	⑤ “食”から健康をサポートするボランティア。食生活について学び、食を通じた健康づくりを目指して、自分自身、家族、地域へと健康食を伝達する活動を行う。	⑤ 川津公民館
子 育 て 支 援	① わいわいサロン ② ほっとばる ③ 川津あったかスクラム ④ 乳幼児学級「かわつっ子」 ⑤ ベビーマッサージ	① 保健師による乳幼児健康相談、子育て相談、各種測定 ② 親子の交流(0歳～就学前)、子育て相談 ③ 障がい児(者)の交流の場、体験活動、地域との交流 ④ 季節の行事、親子の交流(0歳～就学前) ⑤ 助産師によるマッサージ指導・相談(3か月～1歳)	① 市健康推進課 ② 川津公民館 ③ 川津公民館 ④ 川津公民館 ⑤ 川津公民館
そ の 他	① 子どもの居場所事業 (学坊屋シリーズ)	① 小学生を対象にした長期休業中の各種活動 ※参画団体 ・公民館青少年部 ・公民館文化部 ・地区青少協 ・地区社協 ・川津小学校PTA等	① 川津公民館

【関係機関連絡先・電話番号】

関係機関名	電話番号	備考
川津公民館	21-2349 27-4641	
川津交番	21-4794	
松江市防災安全課	55-5115	
松江市社会福祉協議会 地域福祉課	24-5800	
同上 ボランティアセンター	27-8388	
同上 福祉なんでも相談所	22-7830	
松東地域包括支援センター	24-1810	

